



興味をもつこと！

校長 浅見 正史

今年の夏は、異常なほど猛暑日が続きましたが、この暑い夏、生徒のみなさんが学習やスポーツ、部活動に励む姿にたくましさを感じました。しかし、暑いといっても、二十四節気では8月8日は秋の気配が感じられる『立秋』、8月23日は暑さがおさまるころの『処暑』であり、暦の上ではもうすでに秋です。9月は暦通りの季節（気温）になることを願うばかりです。

この夏、作家の辻村深月（つじむら みづき）さんの講演を聞く機会がありました。その中で、「読書好きになるにはどうすればよいか」と言う質問に対して、「無理やり読書をしなさいと言っても好きにならない。まずは興味をもったジャンルの本から始めてみてはどうですか。そこから、次へ、また次へと興味が増していくのではないのでしょうか。」と辻村さんは答えられました。そこで、直木賞や本屋大賞などを受賞された辻村さんはどんな小説を書くのか興味をもち、さっそく本屋へ行き、『この夏の星を見る』という最新刊を手に入れました。この本の紙帯（本の帯）には、コロナ禍、中高生の部活動、オンライン会議、スターキャッチコンテストという気になるキーワードが書かれており、ますます興味がわきました。

『この夏の星を見る』は、ほんの少しのきっかけで天体活動に興味をもった中学生、コロナ禍で様々な思いや悩みなどをかかえる高校生が、それぞれ違った場所で同じ時間に星をさがすというコンテストに向けて、多様な人たちとオンライン会議で親交を深めながら取り組んでいく姿などが書かれています。私は読み終えた後、コロナ禍の三年間は様々な生活の制限や思い通りに行かないことなど、想像もつかない生活でしたが、あの時の日常生活や学校生活の経験は無駄ではなかったということ振り返ることができました。

生徒のみなさん、いよいよ2学期がスタートしました。2学期に取り組みたいことは何ですか。これから生活していく中で、どんなおもしろいことや楽しいことがあるかわかりません。「何かのきっかけ」は実はあちこちにあります。そのきっかけから、興味をもち、楽しみを見つけ、そこに向かって取り組んでください。